

本草図譜卷之八十九目錄

灌木類

五加	抱杞	地骨皮	一種	一種	一種
むぎき	ぬこくびり	たけのつぎ	一種	一種	一種
一種	三	一種	一種	七	一種
一種	枸棘解集	澁朮	一種	一種	一種
	うつき				
	四	五			九



花葉とも常の品
 お似て実熟をれり
 白色に微し褐色も
 帯へり

一種

本草図譜
 卷之八十九



本草圖譜卷之八十九

灌木類

五加

五加 和名 欽 うあき うあきの漢音 五加 五加
 金玉香草 群芳 文章草 花鏡楊 五加 花
 八角茶 四書 金鹽母 花鏡楊 五加 花
 杜蘅 共二同山 豉母 花 五加
引兼名花 同上引 本草和名 引經義經

東都 岩崎常正 著
 男 岩崎信正
 門人 小山廣孝 校

一種	紫荊	蔓荊	一種	一種	一種	楊檀	本草圖譜 卷之八十九
あらしまきまきふ	まふまはう	たまむひ	大岩まきまき	まふまき	まふまき	たふうつぎ	
	十九	十六		十一	九		
一種	紫珠	一種	牡荊	石南	一種	一種	
やふーろ	あむまき		みんまき				
廿	廿		十五	十三	十二	十	



本草図譜 卷之十九



樹高八尺至十樹皮白色を帯へり
春月宿莖より嫩芽を生じ一莖五葉を
成りて形牡荊に似て先尖られ周りに浅き
鋸齒あり一葉の長さ二寸許り小至り此葉葉
き時採て食料とす凡 夏月葉の間小
花穂を引て開き後実を結ぶ形人參の実
に似て因り秋月小至り黒色とす葉も
秋月小至れば枯落り大和本草小葉を食
し又乾して食り茶と成りしり



本草図譜 卷之十九



本草図譜 卷之八十九

本草図譜 卷之八十九



一種

此品人家多く栽て藩籬しふる樹高
 七八尺下至樹皮前糸と同一舊莖
 新莖とよみ刺多うて葉をとり不甚害
 あり春月葉を生け形前糸に似て少
 小く花実も又前糸とあり





枸杞

ぬきぐさり 和名
くさりの音轉

とらぐさ 俗名 苦菜 通雅 象此茶 枸杞子
 純盧 上同 仙人杖 疏草木 鹽麤 名物言
 地精 医学入門 天精子 杏祖筆記 引廣韻

枝幹蔓不似て柔之長をれハ長ニ丈許リ不
 至一ノ根より叢生其春月嫩芽を生一葉の
 形状石榴の葉に似て軟く夏月葉の間三四花
 を簇生其花の形桔梗に似て至一小く淡紫色之
 後実を結不形櫻桃の實に似て大く長し何熟
 せば紅色とあり味酸甘此品は嶺南の説
 小其實形長而枝無刺者真枸杞也

本草圖譜
卷之八十九
三



本草図譜

卷之八

七



枸杞の根の皮
其形朽木の肌
の如く黒褐色
して軟くあり

地骨皮

許り葉の形前条に似て少く小く舊葉新葉と未
刺を生り花実も前条と同一く更前条より長く
あり若嶺の説は有刺者枸杞也といふものなり



枸杞集

るかろく

人家不裁て器とよむ樹の形前条に似て長十三文

本草図譜

卷之八

四



本草図譜 卷之十一



澁朮

本草図譜 卷之十一

集解の諸説してハ適當ナクされとも古説ハ隨こらつきを載た山野人家
とも不多く何れ樹高七尺乃至一丈葉對生丁春月嫩芽を生れ葉の形亦
天蓼に似て厚く周り不鋸齒何れ初夏梢小二寸の穂を成り了立幹は白花
を開く形枯梗に似て大さ四五分許く後更を結ぶ形
水んけの實の如し

うつぎ 和名
うつけ 上
あろろのそふ
うのそふ
もめき 陸
州



本草図譜

七

一種



樹高き七八尺に至る
葉の形うつき小円
初夏梢小穂を
て千葉の淡紅色
の花を開く形菊
の如大四五分許り
なり



本草図譜 卷之八十九

六

一種

あつぎ
むめうつぎ

樹高き二三尺小
至る葉の形前
糸小似て小く
花も前糸不同



本草図譜 卷之九十九

本草図譜 卷之九十九

一種
 葉の形うつき
 似て糙蕨よく
 小穂を赤く
 五瓣の花を
 大さ三四分許り

一種
 ちろうつき
 光日
 やちか
 うつき
 馬



一種
 樹の高さ前余と
 花葉の形状亦前
 と同じく白色なり



本草図譜 卷之九十九



本草図譜 卷之九十九





楊 檀

山に自生あり人家にも多く栽せ樹高
 五六尺春嫩芽を生じ葉の形紫
 陽花に似てかく薄く周りに鋸齒の
 葉嫩き時紅色を帯り夏月
 葉の間小花を開く形常のうつき小
 似て大く長き一寸余淡紅色なり後実
 を結ぶ熟れば四五瓣に破きて花の如し

たふうつき やまうつき
 さろきむ系越 さをとのらつき

本草図譜 卷之十九



本草図譜 卷之十九

本草図譜 卷之十九

一種

樹高六七尺不至春月旧葉より嫩芽を生じ葉の形状はみうつぎに似て
大小厚く周りに鋸齒あり初夏より葉の間より一方に六七花を生じ二
方合せれば數十花あり次日は淡紅色となる日小随て紅色とあり一本満
開るときは紅白数百花相雜りて甚美あり

もみねうらぎ 十姉妹 三五 錦帯花 上同
長賢 嬌 丹鉛總引 海仙花 麗水燕 日月花 中山
成都古今記 冊録



一種

樹葉花実とも小
前名小似て花黄色
色あり



本草図譜 卷之九



本草図譜 卷之九

もみぢね
うけず





一種

樹葉花とも不
前名小似て
花深紅色あり
との



一種

樹葉花とも不
前名小似て花
白色ありとの

本草図譜 卷之八



本草図譜 卷之八十九



石南

あやふか

あやくあき あやふん

深山幽谷に生ずる樹の高さ六七尺に至る
 葉四時とも不凋まじり形状枇杷の葉
 に似て小さく面深緑色に背ハ褐色の
 柔毛有り初夏梢小枝を生じ数花を
 咲かす一花の形躑躅に似て大小五瓣
 或ハ六七瓣を有し開くときハ淡紅
 色と赤れり

本草図譜 卷之八十九

十三



一種

大峯

あやらおぢ

葉の形やたけに似て
厚く面深緑色背
小葉楊色の毛あり
花の前条小同一と云
ふ夏に見えぬと云
せ



牡
荊

さんちんちん

たつのまき

らわや

土薬通

木薬

夢溪
筆談

和産の一年保年中漢種渡りしより今世多く樹叢生し高さ丈余小至る春新葉を
生を枝葉対生し葉の形三葉後五葉とあり入参の葉に似たりと云ん
なくと名づく一葉の形長く尖る鋸齒ありて香葉の葉の如く嫩葉は微く紫色
を帯び長それは淡緑色と云る新枝方より緑色旧枝は白く褐色之折れ
中亦心ありて他木と異なり初夏より枝の梢より穂を生し花を
枝多し長又許り花の形紫葎の花に似て薄紫色後実を結ぶ形胡
荽子に似たりと云く微く長く熟をぬる黒色く



本草図譜 卷之八十九



小んぢん
石く

本草図譜 卷之八十九

十四



本草圖譜 卷之...

蔓 荊

をまをい 本草和名 ちりまをい 和名 ちまをい 和名

はすかつら 和名 ちまごろう 和名 ちまつむき 和名

ほろ 和名 ちまごろう 和名 ちまつむき 和名

をまをき 和名 ちまごろう 和名 ちまつむき 和名

ちまをい 和名 ちまごろう 和名 ちまつむき 和名

暖地の海辺に自生し、枝幹とも柔軟なり。蔓の如く、枝地不付、節に葉を
根を生じ、葉は円く、白微の葉に似て、厚く、靑緑色なり。対生し、秋は莖
の梢端を生じ、長さ三四寸、紫碧色の花を同く、紫葇の花に似て、至て
大、五六分許り、後室を結ぶ、円く、褐色、其殼厚く、形南燭の子より大い

豆形志、根を揉み、紅色を染と云、此枝葉を揉み、下品の線香に造
る、と云

一 種

樹葉花とも、形状前条不同、唯花正白色、此室も前条と同く、葉用
み、と云

本草圖譜 卷之...





本草図譜 卷之八十九



蔓荊

本草図譜 卷之八十九

十七





紫
荊

本草圖譜 卷之十九



本草圖譜 一巻之...

紫珠

解集 少...

ミ...

...

山中... 葉の形... 花を...



花実の形状... のかく...

一種

...

...

...



本草図譜 卷之六

本草図譜 卷之六



一種

常は筑波山中にあり樹高一丈許り葉の
 形はむらさき小似たり夏月葉の間は五瓣
 の小白花を簇生に後小き実を結ぶ初緑
 色熟ると白色と成る形状はむらさき
 と同じ

やぶ
 ーろ
 やま
 ーろ



本草図譜 12冊 寄別9121

11-194

特
図
278

本草図譜

喬木類
灌木類

82-87

国立国会図書館

6 7 8 9 30 1 2 3 4 5 6 7 8 9 40 1 2 3 4 5 6 7 8 9 50 1 2 3 4 5 6 7 8 9 60 1 2 3 4 5 6 7 8 9 70 1 2 3 4